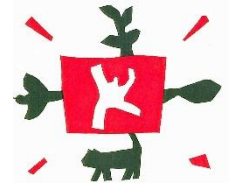


共同通信



2026 年 9 月 27 日 360 号 (570 号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 259

説教「平和を守れというな」

マルコによる福音書第 7 章 31～37 節

イエスは、神に向って、とつても身近な言葉で「お父さん」と呼びかけます。

「主の祈り」の「天にまします父なる神よ…」の「父」がそれにあたります。

(昨日、8 月 21 日に、27 年前のトルコ地震で出会うことになった、オキアイ・マムジャルカクタイさんをお招きし、3 年前の地震についての報告会を開くことになりました。その報告で教えてもらったのが、3 年前の地震のトルコ島南部地方のアンタキア地方の北西では、今も、アラム語が使われていることでした。イエスが、日常的に生きて生活していた時の言語はアラム語で、それが主の祈りになり、マルコ福音書 15 章の、イエスの最後の言葉もアラム語です)。

ただ、イエスの日常で、宗教はユダヤ教でしたから、そこではヘブライ語の世界であり、もう一方でイエスの生きた植民地支配のパレスチナでの言語はギリシ

ヤ語でした。

そんな「世界」で、神に向って、お父さんなどと言ったりするのは、キュンクによれば、その主の祈りはそれなりに特別なことでした。「…まったく神聖ならざる日常の習慣から語られる祈願」であり、それをアラム語で祈っていたのです。

それはしかし、決してあたりまえのことではなく、がちこちの宗教、絶対的支配の政治の世界のど真ん中で、この人は自分の生活の言葉、生活の世界を、…「自由」に生きていたことを意味します。

余談になりますが、時々紹介させていただく日本「昔話」は、もとはと言えば「方言」です。「方言」は、たどたどしく聞こえてしまいがちですが、そう聞こえたとしても、実は人が生きる生活のにおいそのままの、生活の言葉、それが方言です。そこでは、人々が自然の生きものたちと、その自然を共有する形で生き

ていました。そして、聞こえてきた自然の音が、その自然の生きものを主人公とする「昔話」になったりしたのだと考えられます。

ハンス・キュンクは、古代社会のあれこれの拘束を断ち切るようにして生きるイエスについて、それを「イエスの自由」と言っています。「…があちこちの宗教、絶対的支配の政治の世界」の中で自分の生活世界の中で生活し、生活世界の言葉で、たとえば神に向かって「お父さん」などと呼びかけて生きていたという意味で自由な人だったのです。

もちろん、そんなイエスと、イエスを取り囲む人たちが生きていた日々、それは間違いなく「とってもうれしい」日々でした。日々であつたに違いありません。福音書の、それらの記述は、「働きもせずに」さまよい歩いているように見えなくはありませんが、間違いなく、イエスを中心に人々が出会っていることが、「とってもうれしい」そんなことが起こっていたと考えられます。

たとえばそれは、マリー・ホール・エッツの「わたしとあそんで」

(訳：与田準一／福音館書店、1968年)の世界のようによです。出会った生

きものたちと、「あそんでほしい」と手を差し出しますが、みんな去って行ってしまう。「わたし」が池のそばに座って、じっとしていると、去って行った

生きものたちが戻ってきます。鹿の赤ちゃんは、「わたし」に近寄ってきて、更に近寄ってきて「わたし」のほっぺたをなめます。その時「わたし」は、「とっても　とっても　うれしい」と、「わたしとあそんで」でエッツは書きます。

それが実現したのは「わたし」の自由な時間の自由な場所の、自由な世界の自由があつてこそです。

ハンス・キュンクの言うところの「イエスの自由」で、イエスと集まっていた人たちが獲得していたものこそ、そういう意味で、「自分の時間の、自分の場所の、自分の世界」の自由でした。それは、そのまま、その世界の制度、規則をぶち壊すことになりかねざるを得ませんでした。いいえ、なっていました。

そして、以下の事が起こります。

「…以下のことは一つの事実であつた。独特の新しい仕方で、父なる神を告げ知らせ、父なる神に語りかけることによって、その光は、かくも独特で新しい仕方で神を告げ知らせて語りかける者自身を照らし返した」「…特定の名前や称号に対してではなく、このイエスに対して、信仰の決断が行われた。イエスとどのように関わるのかが、神といかに向き合うか、神をどう思うか、いかなる神を持つかを決定した。イスラエルの唯一の神の名と力において（その神を乗っ取るようにして、引用者注）、イエスは語って行爲した。そして最終的に、その神のために、彼は殺されたのである」（「イエス」ハンス・キュンク）。



「イエスの自由」が「その神のために、彼は殺された」となるのは、一つの「比喩」でなくはありませんが、一つの「真実」ではあるのです。たとえば、子どもたちの場合、学校という制度に対して「行かない」は「不登校」になって言わば断罪されてしまいます。社会は、不登校という目で見えてしまいます。しかし、少数であっても誰かが、それをその子どもの選んだ「自由」として見、受けとめれば、世界は一変します。そんな「自由」の世界に広がるのが、エッツの「わたしとあそんで」の「とっても　とっても　うれしい」世界です。

「イエスの自由」は、キュンクの言うように「その神のために、彼は殺された」となります。なりますし、それを「殉教死」とする宗教になったりもしますが、「何時の」時代、「どんな」社会であっても、「傾ける耳」「涙する目」「差し伸べる手」の世界の一步にはななくはないのです。

祈ります。

(菅澤 邦明)



ウメモドキ

社会科の誕生と民主主義

■社会科は何のためにあるのか

「社会科は何を学ぶ教科ですか。」この問いに対して、多くの人は「地理や歴史を学ぶ教科」「都道府県や産業について学ぶ教科」と答えるだろう。もちろん、それは間違いではない。しかし、社会科が誕生した背景をたどると、この教科が単なる知識の習得を目的としていないことが見えてくる。

社会科が誕生したのは 1947 年。終戦からわずか二年後、日本が新しい国づくりを始めた時代である。戦争によって多くの命が失われ、人々の暮らしは大きく傷ついた。「なぜ戦争を止めることができなかったのか」「これからどのような国をつくれればよいのか」という問いが社会全体に投げかけられていた。そうした反省の上に立って学校教育も見直され、新たにつくられた教科が社会科であった。

以下の文言は現在の学習指導要領における社会科の目標である。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

社会科が目指しているのは、知識を多くもった人ではない。民主的な市民である。

■民主的な市民とは

では、「民主的」とはどのような姿だろうか。

私は、思い込みよりも事実を大切に、感情だけで判断するのではなく根拠を求める人だと考えている。自分の考えを絶対視せず、多角的に問い直しながら判断する人。そして、自分と異なる意見をもつ人とも対話し、よりよい答えを共に探ろうとする人である。さらに、少数者への配慮を忘れず、排除より包摂を、分断より対話を選ぶ人でもある。

民主主義という言葉はよく耳にする。選挙があり、議会があり、多数決によって物事を決める制度である。しかし、それほど立派な制度が整っていても、それを支える人々が民主的でなければ、民主主義は十分に機能しない。

■分断の時代

しかし、私たちの社会は本当に民主的と言えるだろうか。2016 年、イギリスでは EU 離脱をめぐる国民投票が行われた。いわゆる Brexit である。その報道の中で印象に残ったのが、「主語が We から They に変わった」という市民の言葉だった。

もともとイギリス社会は、多様な価値観や文化をもつ人々が共に生きる中で、意見の違いを抱えながら議論を重ねてきた。ところが EU 離脱をめぐる議論の中

で、人々は「残留派」と「離脱派」に分かれ、互いを「私たち」と「彼ら」として語るようになった。政治的立場の違いが、家族や地域社会の分断へとつながっていったのである。

同じような空気を私は 2024 年の兵庫県知事選挙にも感じた。政策や事実について議論するというよりも、「こちら側」と「あちら側」を区別する空気が広がっていた。支持する候補が違うだけで、相手を理解しようとする前に敵味方で判断してしまう。そんな場面を少なからず目にした。

本来、民主主義において意見の違いは自然なことである。社会が豊かであるためには、多様な考え方の存在が欠かせない。問題は意見が異なることではない。異なる意見をもつ相手を、「対話すべき存在」ではなく「打ち負かすべき敵」とみなしてしまうことなのである。

■SNS が生み出す分断

こうした分断の背景には、SNS の発達もあるように思う。近年、とりわけ若者は政治や社会に関する情報をテレビや新聞ではなく SNS から得る傾向が強くなっている。SNS は社会問題に関心をもつきっかけを与えてくれる一方で、民主主義を支える熟議や対話を難しくする側面ももっている。

その代表が「フィルターバブル」と「エコーチェンバー」である。

フィルターバブルとは、SNS のアルゴリズムによって、自分の好みに合った

情報ばかりが表示される現象である。私たちは自由に情報を選んでいるつもりでも、実際には自分が見たい情報、自分の考えを補強してくれる情報に囲まれている。

さらにエコーチェンバーでは、同じ意見をもつ人々が集まり、その考えが何度も反響することで、自分の考えが唯一正しいものであるかのように感じられる。結果として、異なる意見に耳を傾ける機会はさらに減っていく。Brexit で語られた「We から They へ」という変化は、こうした情報環境の影響と無関係ではないだろう。

■民主的な授業は民主的な社会から

だからこそ、今の時代における社会科の役割は大きい。相手を論破することではなく、理解しようとする。自分の考えに固執することではなく、よりよい答えを共に探すこと。多数決で勝つことだけでなく、少数者の声にも耳を傾けること。そのような資質や能力を育てることこそが、社会科の使命である。

しかし、社会科の授業だけで民主的な市民を育てることはできない。戦後間もない時期に出された社会科の解説書には、「建設的な社会生活に参加するために必要な理解や態度や能力を育てること」が社会科の目的として示されている。そして、その力は「民主主義に徹底した学習環境の中で、児童たちを実際に生活させるよりほかにしかたがありません」と述べられている。

民主的な市民は、民主的な環境の中でしか育たない。学校だけではなく、家庭や地域、職場においても同じである。異なる意見に耳を傾ける姿勢、事実にもとづいて考える姿勢、相手を敵ではなく共に生きる隣人として見る姿勢。そのような大人の姿そのものが、子どもたちにとって最も大きな教材なのである。

社会科が誕生して約 80 年。その願いは今なお色あせていない。人と人との分断が深まり、「We」ではなく「They」で社会を語ることが増えた今だからこそ、私たちは改めて「よりよい社会とは何か」を問い続ける必要がある。社会科の学びが学校の中だけにとどまらず、家庭や地域へと広がり、一人ひとりが「私たちの社会」をよりよいものへと育てていく力となることを願っている。

(石田 航平)



ムクゲ

今月の畑だより

園芸サークルの畑作業は、8月8日（火）は雨の為、お休みとなりました。

15日（火）、1週間ぶりの畑は、たっぷりの雨で元気いっぱい。もちろん、雑草も元気いっぱいで、2週間前とほぼ同じぐらいに「育って」いました。

そして気掛かりだったのは、9月中旬ぐらいに咲き始める彼岸花のことでした。毎年、彼岸花が芽を出し、咲き始める前に、周辺の草を刈ることにしていますが、1週間空いただけなのに、草の間から芽を出し始めていたのです。中に、5、6本がうんと伸びて、なかには花を咲かせているものもありました。

その彼岸花ですが、かつてはおよそ2000本はあった幼稚園の畑で、9月中旬には一斉に咲き始めていたのに、何年前か前ごろから、一斉ではなくなり、去年は10月になっても咲いている彼岸花がありました。

その畑のヒマワリは、ヒマワリ畑であった様子が終わり、ほんの少し、枝のヒマワリ、枝分かれした枝のヒマワリが、少しだけ花を咲かせています。

また、畑一面に広がって育っている青じそは、白い花が咲き始めています。毎年、そのしその花の実（穂じそ）を摘んで作る「しそ味噌」は、すっごく好評です。例えば、教会学校の子どもたちの活

動のおやつのご飯にペタッと乗っけると、「大好評」なのです。そんな穂じそは、まだですが、15日（火）には、白い花が咲き始めた青じその花の「穂先」を摘んで、「しそジェノベーゼソース」を作ってみました。そのしそジェノベーゼソースを、その日の読書会の昼食のピザに乗っけると、「しそジェノベーゼピザ」になり、とても好評でした。

その畑は、雑草に囲まれながらも、雑草たちに負けないで、ツルを伸ばしているサツマイモも、ぼちぼち収穫の時を待っています。



あんなこと こんなこと

2026年8月21日(金)

須磨であそぼう

須磨浦海岸

9人の子どもたちと須磨へあそびに行ってきました。日差しが強い暑い一日でしたが、海に着けば子どもたちは元気いっぱい！波打ち際を走ったり、きれいなシーグラスを探したり、寄せてくる波を全身で浴びたり。「しょっぱい！」と言いながら、海の水もたっぷり味わって、潮風と波と海の塩を体いっぱいを感じた1日になりました。



2026年8月21日(金)

関西神学塾

オキアイ・マムジャルカクタイさん「自然災害がつなぐトルコと日本」

西宮公会堂 集会室

オキアイさんとの出会いは、1998年のトルコの西部地震の被災地を訪れたときでした。2023年のトルコ・シリア地震では、故郷アンタキアも被災。私たちの募金を、必要な支援物資として、現地へ届けてくださいました。



約30年ぶりの再会！



2026年9月10日(木)12時～13時30分ごろ

まち食堂

西宮公同幼稚園園舎・みる部屋

今回の主役は、秋の味覚「さんま！」 園庭で炭火をおこし、さんまを焼きました。モクモクと上がる煙と、なんともいえない香ばしい匂い。焼いているそばから、お腹がすいてきます。畑で採れた野菜をはじめ、かぼちゃ、たまねぎ、じゃがいもなどをたっぷり使った、野菜中心のメニューも並びました。野菜いっぱいなのに、なかなかのボリューム！ 秋の味覚をたっぷり楽しむ、とっても美味しい「まち食堂」となりました。10月は、8日(木)、22日(木)の予定です。



2026年9月12日(土)11時～14時ごろ

クリスチャン・センター フェスティバル

兵庫教区・クリスチャン・センター(神戸市東灘区)

昨年に続き、クリスチャン・センターフェスティバルに参加しました。9人の子どもたちと、4人の大人のエイサー隊で、3曲を元気いっぱい演舞！ 少し狭いステージもなんのその、みんな思いっきり踊り、とってもかっこよかったです。販売では、西宮公同教会名物のポップコーンも好評でした！



福島東電の事故 そこから考える

小豆川勝見さんは測り続けています
③

ホットスポットはどこにでもあります

これは都内の例です。ある公立小学校から頼まれて測りました。2019年2月です。

「校内にホットスポットはないか測ってください」と頼まれたのです。

「はいよ!」と引き受けました。

うろちょろ、うろちょろと校内を検出器をかざして歩き回りました。あるところで急に数値が上がりました。さっきまで0.09マイクぐらいでしたが、0.2、0.3と上がっていき、0.4マイクロまで上がった記憶があります。おかしいな? なんとこんなところにあるんだろう、と考えました。スポットができる要因がないんです。

そこで学校関係者に聞いてみました。

「そこは主事さんが掃き集めたほこりやごみを捨てていたんです」。主事は昔風に言うとう務員ですね。

このことを学校関係者に話すと「へえ、そういうことでもセシウムが集まるんですね」

「子どもたちが駆け回る場所だからきちんと処理された方がいいですよ」とお伝えしました。小学校の先生たちも驚いていました。

ホットスポットは人為的な要因でもできることが分かりました。もちろんこの

ようなケースは避難指示が解除された地域でも見受けられます。

大熊の例ですが、新しく建設された商業施設のそばの側溝で毎時13マイクロシーベルトでした。同じく農業用の水路では、30マイクロでした。計器の針が振り切れました。少しでもクラックがあったり溝があったりするような場所だと5から15マイクぐらいのスポットがすぐ簡単に見つかります。

特にちょっとまずいなと思っているのはこういう農業用水路ですね。底に溜まっているものが結構高いです。この状態で営農を再開をしようとしているのでまずいな、と思います。雨水がガンガン入ってきて、田んぼの方に流れていくと田んぼが汚染されてしまいます。

この点も住民の皆さんに説明しているんですが、なかなか伝わりません。それでも丁寧に測定した結果を関係者には周知していくことはしています。そういう情報を少しでも広めていただけると大変助かります。

やっぱり私が気になるのは、子供がいっぱい集まるような学校とか、そういった場所はもう少し綺麗にしてあげてもいいんじゃないかなと思います。

大熊の「ゆめの森」という学校があるんですけども、その周りをただテクテクテクと道の上を歩くだけで、0.06から0.05、0.10ミリシーベルトの数値がずっと確認されるだけなんです。だけれどもこれをちょっと水の流れに注目して、あつ、あそこ溜まりそうだなっ

ていうところをチェックしながら行くようになります。小数点を超えます。道の端に寄って歩いてしまうとすぐ線量率がポンっと上がります。この学校の南側には少しだけ山があります。この山の中に入ってみるとさっきまでは 0.05 とか、0.10 ぐらいなんですけれども、その20倍ぐらい高い1マイクロぐらいのスポットがこの中にはあります。

この山の中で、遊ぶ子はあんまりないかもしれませんけれども、ちょっとここは注意した方がいいなと思います。なぜならここに面的にセシウムがいつばいあるのは間違いなく、この校舎の1階ではなく2階の方の線量率が上がるはずです。なぜなら横から放射線を食らうので絶対に1階より2階が高くなるはずで、それでJAさんをお願いして、ドローンを上げて測ってもらいました。やっぱり1階は大丈夫でした。2階の方が横の山からの影響を受けて線量率が高くなっていました。だから2階の線量率を下げたければ、ここの山を全部除染するしかありません。そういうふうに環境省に何回か主張しててゐるんですが、環境省は、まだ1回か2回しか除染してくれません。僕はここの学校へ通ってくる子供たちに関して言えば放射線のことは気にしなくてもいいような環境を目指していくのが大事だと思っています。

「放射線は下から集まるんじゃない、横からも来るぞとか、あるいはホットスポットがあつて、そこにセシムをがどんどんどんどん移っていくよ」ということもお

伝えしていかなきゃいけないと考えています。だから繰り返し測ることってすごく大事だなと思っています。

次に食べ物について少し話します。例えばジャガイモです。最近、帰還困難指示が解除されて、営農も自由になった農地でとれたジャガイモです。それを店で売っているもの、これ試しに1袋、買って測ってみました。

このジャガイモにはどれぐらい含まれているかっていうと、キログラム当たり7ベクレルぐらいでした。基準値が100なので7は問題ない数値というふうに判断しました。販売には何ら問題はありません。その次に1個1個測ってみます。1個1個測ると8ベクレル、27ベクレル、33ベクレル、16ベクレル、といろいろな数値が測定されました。つまりその1個1個のものについても結構なばらつきがあるよっていうことは知っておかなければいけません。その畑のどこでとったのかです。端っこの方の例えば水が入り込みやすいところととったのか、あるいは畑のど真ん中で取ったのか、そういうことによっても放射能は変わってきます。加えてこれ全部測っても100を超えてるものはありませんから、全部出荷したって問題ありません。

でもこれを例えば加工してしまった時、ポテサラにした時、あるいは一番まずいのはポテトチップスみたいに水分がガッと抜けた瞬間にこれ全て基準値越えになります。そうするとせっかく基準値内のジャガイモで作ったポテトチップスで

すよって言って出荷したものであっても加工した先で基準値を超えてしまって全部出荷停止っていうふうなことがあったりします。

これも普段から放射性物質を測っていて、知っていることなんです。けれども、新しく来られた方は、なかなかピンとこないっていうような実例です。少しでもこういったところを忌み嫌うことなくこういう特徴があるんだよっていうことを情報を共有していくことは、多分誰にとっても損んではないというふうに考えています。少しでも多くの方が測定に興味を持っていただけたらありがたいなと思っています。

小豆川さんの話を聞いて考えました。

原子力という科学技術の裏には、恐怖での支配という顔が隠されています。地産地消のエネルギー、管理しやすいものでいいのだという方もいます。しかし科学技術という禁断の果実を口にした人類はその欲望を抑えることはできません。ならばその科学技術にしたしむことです。放射能の性質を勉強し、どれくらいなら許容できるのか。まず知ることです。それが地獄への道程だとしても欲望と仲良くすることが一つの答えかもしれません。人類がその地獄を天国に変えることを願望として信じて明日を生きるしかないのです。

(四方 哲)

※ロシナンテ社では、福島は今、原発問題につ

いて、PDF 版「ロシナンテ通信」をインターネット配信しています。

年間購読代 3600 円 お申込みをよろしくお願いいたします。shikatasatoshi@gmail.com



野バラ

～♪ぼくのみる空と きみのみる空は
つながっているから～

名護七曲（160）
「回転の不思議」

ワードで文書を作成していた時、入力した「しゅまるかるでんどうめい」がわざわざ漢字で「主丸加流伝同盟」と変換されて出て来ました。微笑ましいと言うかなんと言うか▼昔のツッパリ文化にこういう当て字の文化がありましたね。

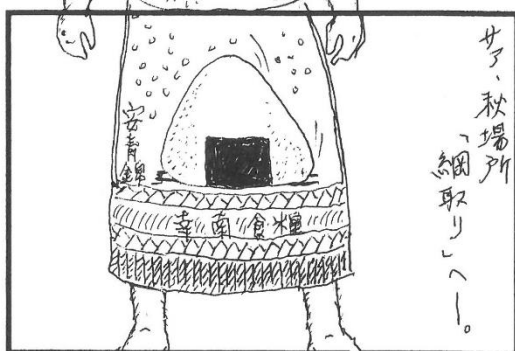
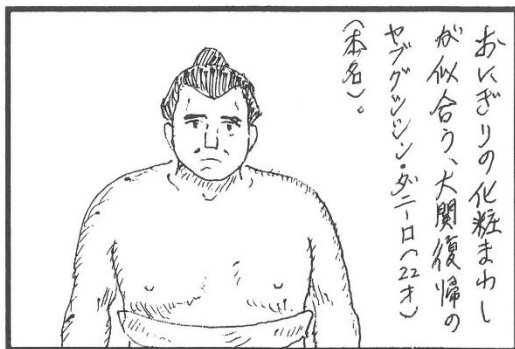
「夜露死苦」とか「佛恥義理」とか、今はあまり見なくなりましたが▼確認のため「ペロポネソすどうめい」を試してみましたところ、こちらはちゃんと一発で「ペロポネソス同盟」と変換されて出て来ました。うちのワードは 16 世紀のドイツ諸侯に対してどうやら“族”のイメージを抱いている可能性があります▼ツッパリとか暴走族って共助の気持ちに溢れているのか、やたら連合しますよね。スパルタやドイツ諸侯は「〇〇同盟」でしたが、暴走族に多いのは「△△連合」。同盟と連合は何がどう違うのか？ 今さらではありますけれども一応辞書で調べておきたいと思います。少々お待ちください▼お待たせしました。辞書（新明解）によりますと、【同盟】は「〔国や組織や個人が〕共同の目的のために同じ行動を約束すること。また、その約束（によって生じた関係）」—ということらしいです。一方【連合】は、「別別の人・店・機関・国などが、相互の繁栄のために力を

合わせること」—らしいです。私にはどう違うのかちょっとよく分かりませんでした。ついでに「連盟」についても調べてみましたので、参考までに書いておきますと、【連盟】は「共通の目的を達成するために提携し協同することを申し合わせること。またその組織」—ということらしいです。同じくない？▼英語だと＜union＞？ ユニオンって聞くとどうしても労働組合っぽく聞こえてしまうのですが、沖縄島ではそれは年中無休・24h 営業スーパーマーケット“フレッシュプラザ・ユニオン”（釐野嵩商会）のことを意味します。つながるハッピー、ユニオンですから。残念ながら北部地域には店舗展開していません。なのでユニオンでは私は一度もお買い物をしたことがありません▼ユニオンの“uni”はラテン語の“unus”（数字の1）から来ているそうです。そういえば統一装束のユニフォームも、唯一無二で風変わりなユニークも“uni”。宇宙もユニバース。ちなみにユニバースのバース“verse”は、これまたラテン語ですが、“vertere”（回転）から来ていて、「回転して一つになったもの」というのが元々の意味らしいです。ぐるぐる回すと飛び散ってしまいそうな感じがするのですが、実際はそうはならないということなののでしょうか。どういうこと？

（羽柴 禎）

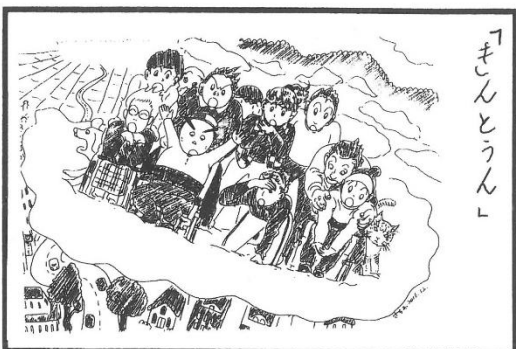
△ 晴れのち福ちゃん さちお画

安青錦のこと



☺ 晴れのち福ちゃん さちお構成

私はマンガが好き



朝日新聞 2026.3/10 // 神戸新聞 8/23より引用しました。

つとかいわ・あれこれ

全国紙でも大きく報道されたように、沖縄県知事選は、「辺野古容認」の候補者が多数の票で、当選することになりました。

沖縄の人たちの生活は、外部からの政治的働きかけによって大きく影響され続けてきました。他のどの都道府県であっても、知事選の争点の一つが、時には人々の生活を左右する外国軍の基地の建設問題になることはありません。あり得ません。

沖縄では、「世界一危険」と言われる基地の移設を、結局は県内に、沖縄の人たちの自慢の「美ら海」名護市辺野古の海を埋め立てて建設することが、外から、国の方針で決められてしまいました。

今、そこでは、海の浅い部分の工事を終了し、深い部分、サンゴなど豊かな海を埋め立てる工事が始まっています。これらの工事は、近年の自然への理解、保護ということにはあり得ないはずなのに、政治も司法も、沖縄の東アジアでの設置を理由に、容赦なく建設が進められてきました。

その場合の政治は、地域の人たちの生活の細部にまで及び、たとえば地元の名護市が実施している「給食費の無償化」は、基地建設には反対しない、名護市政の方針に対する国からの補助金で実現しています。

それに近い事は、他でも行われていなくはありませんが、生活の細部にまで及ぶという意味では、沖縄は特別です。

その特別が、影響したのが、「辺野古容認」の知事当選であるに違いありません。

ただ、そうして沖縄の人たちの生活に、外部・国からの政治が影響を与えることがあったとしても、そこで生きる人たちの魂からの声・叫びは発信され続けるし、私たちのゆるんだ魂にも届かないではおきません。

先日、その魂からの声・叫びを、京都府城陽市で行われた「古謝美佐子+玉城千陽 Okinawa moon 童神〜未来〜」で聴くことになりました。

その一つが、「ウチナー UCHINA〜千と三百の核隠し〜」です。

ウチナー UCHINA〜千と三百の核隠し〜

作詞(ラップ詞を含む)作曲編曲/佐原一哉

ウチナー Uchina 太陽雨に打たれながら

ウチナー Uchina 光と影の狭間で

1、千と三百の地球殺す核が

東の海から 渡ってきた

まやかしの言葉 偽りの契り

西の空向い 眠っていた

ウチナー Uchina 太陽雨に打たれながら

ウチナー Uchina 大波にもまれながら

2、大和世に戻り 幾年過ぎて

(日本復帰をして幾年過ぎて)

戻らぬ海空 静けさ美らさ

(戻らぬ海空の静けさと美しさ)

ウチナー Uchina 太陽雨に打たれながら

ウチナー Uchina 怒りの炎を抱いて

夜明き白々と 明き雲や立ちゆい

(夜明き白々と 明けの雲が立ち)

東 太陽拝でい 平和の島願ら

(上ってくる太陽を拝み 平和の島を願う)

3、月や昔から 変わるくとう無さみ

(月は昔から変わることは無い)

変わっていいくむぬや 島ぬ姿

(変わって行くものはこの島の姿)

ウチナー Uchina 太陽雨に打たれながら

ウチナー Uchina 光と影の狭間で

ウチナー Uchina 太陽雨に打たれながら

ウチナー Uchina 今日また生きて行く

(K)

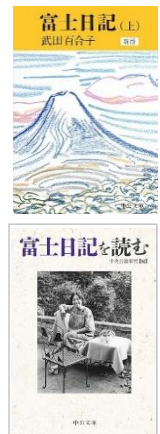
「富士日記」(著:武田百合子/中央公論新社、2019年)が読みたくて、本屋で探すのだが、なかなか見つからない。

ある日、「富士日記を読む」(編:中央公論新社/中央公論新社、2019年)というのを見つけてすぐ買う。これは「富士日記」の熱烈なファンの著名人がこの日記について、いやそれ以上にこの武田百合子という人物の魅力に取り付かれて様々な文章を色々な場所で書いて寄せているのをまとめた1冊。須賀敦子も、小川洋子も。

ますます原作が読みたくなるではないか。本屋で見つけられなければ、すぐ amazon。文庫本で1冊400ページ越えの、上・中・下の丁度半まで読み終えたところ。まだまだたくさん残っているので、嬉しい。

*「富士日記」とは、昭和39年7月〜昭和51年9月まで、武田泰淳の妻、百合子が、富士山麓での生活を綴った日記。

(S)



髪を切りました。

と言っても、今回はかなりのショート。ここまで短いのは、小学生？ 中学生？ もはや記憶をたどらないと思わせないくらい久しぶりです。

私の髪は、昔から「太い・硬い・多い」の三拍子。いや、三拍子なんて軽やかなものではなく、「三難関」です。なので、短くして軽やかに！ なんていうのは夢のまた夢。長く伸ばして、髪の重さと重力にすべてを任せる。これが長年たどり着いた、私と髪との平和な付き合い方でした。それでも何年か前に、ロングからミディアムへ。

そして、今年の夏。暑い。とにかく暑い。そして、ドライヤーが暑い。お風呂でさっぱりしたはずなのに、髪を乾かしているうちに、また汗をかく。そして、ついに決心しました。「もう、ショートだ！」美容院でそう伝えと、美容師さんが、

「いいの？ 本当にいいの？」と何度も確認。

「いいんです。バツサリいってください！」私は実にサバサバしていました。そして、バツサリ。

さすが美容師さん。切って、整えて、ブローしてもらうと、「あら、かわいい！」ショート、いいやん。なんでもっと早くしなかったんだろう。そんな気分で、軽やかに美容院をあとにしました。

——そして翌朝。鏡の前に立って、固まる私。

「あれ？」昨日の「あら、かわいい」は、どこへ行った？ 美容師さんの魔法は、一晩で見事に解けていました。太い。硬い。多い。忘れていた三難関が、朝から元気いっぱいに自己主張しています。

「やば……。これでよかったのか？」ここきて初めて、後悔の念。とはいえ、切ってしまった髪は戻ってきません。「昨日の長さに戻してください」とお願いするわけにもいかず、自分なりにブローしたり、あっちを押さえたり、こっちをなだめたり。そんな毎日を過ごしているうちに、私も髪も、だんだん折り合いがついてきました。

そして今では、すっかりお気に入り。何より素晴らしいのが、ドライヤータイムの短さ！ ああ長いドライヤー生活には、もう戻れないかもしれません。あの日、美容師さんに何度も「本当にいいの？」と聞かれたショートヘア。はい。今なら胸を張って言えます。「切ってよかったです！」

.....翌朝だけは、ちょっと焦りましたけど。笑。

(K)



天人菊